

平成30年度 校内研究計画

山梨市立山梨北中学校

1. 学校課題

平成29年度全国学力状況調査による本校の結果（平均正答率：％）では、「国語A」は山梨県よりわずかに下回ったが、全国はわずかに上回った。「国語B」では、山梨県・全国ともに上回った。「数学A」では山梨県・全国ともにわずかに上回った。「数学B」では山梨県・全国ともに上回った。しかし、設問によっては、正答率が全国や山梨県を下回っているものもあった。

学習の基盤となる「学習習慣」「生活習慣」、学習意欲を支える「規範意識」「自尊感情」については、全国と比較して高かった。また、この調査で「道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいた」の値が全国平均を大幅に上回った。平成28年度「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか」の値は県と比較すると低かったが、平成29年度は、県と比較しても上回った。今後も、各教科への関心や意欲を高め、思考・表現活動を通して各教科の「見方・考え方」を高めていくよう授業改善を図ってきたい。

2. 研究主題

自ら学ぶ力をつける学習指導に関する研究
～ 主体的・対話的で深い学びによる授業改善

3年間の研究でめざす生徒像

様々な状況や学習場面に応じ、自ら考え、判断し、適切に課題解決ができる生徒

3. 主題設定の理由

本校は、平成28年度までの3年間、山梨県教育委員会「授業改善プラン実践事業推進校」の指定を受け、確かな学力の定着と向上に向けての研究の機会をいただいた。26年度は初年度として、「確かな学力の向上をめざす学習指導に関する研究」を研究主題とし、これまでの研究を生かしながら、言語活動に視点を当て、サブテーマを「～言語活動の充実による授業改善～」として、各教科において取り組んできた。2年目は、前年度の研究主題「～言語活動の充実による授業改善～」から「～思考活動の充実による授業改善～」とし、確かな学力の向上を目指し、言語活動を通しての「思考力」を高める研究を深めるべく取り組んできた。3年目の昨年度は「授業改善プラン実践事業推進校」の指定、最終年度としてこれまでの研究を生かし、学力向上に向けて研究を進めてきた。3年間の取組を通して生徒たちの学力の向上が数値にも表れた。また、県学力把握調査、全国学力学習状況調査でも正答率のポイントが上がっている。そして、NRT学力検査・山梨県学力把握調査・全国学力学習状況調査の結果をもとに本校生徒の課題を見つけ、課題を克服するための計画を示した「授業改善プラン」の取組を実践した。また、学習過程についても、全教科共通の過程を目指した『山北スタイル』等を通して主題に迫るべく研究を進めてきている。

今回の学習指導要領の改訂では、社会において自立的に生きるために必要な「生きる力」を育むために身につけさせる資質・能力として

- ①生きて働く「知識・技能」の習得
 - ②未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成
 - ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養
- の三つの柱が掲げられている。

単元の題材など内容や時間のまとまりを見通しながら「何を学ぶのか（教科の目標）」に留まることなく「何ができるようになるか（資質・能力）」を明確に見据えたなかで「どのように学ぶのか（学習過程の改善、主体的・対話的で深い学び）」の授業改善、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」をはたらかせる学びの過程の重視が求めている。

平成28年度までの3年間、全職員が校内研修や多様な研修の場を通じて理解を深めることができるようにすることが重要とされている。①、②については、「生きて働く知識・技能の習得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」を、この3年間の研究の中で取り組んできた。

そして、平成29年度については、上記の①～③の資質・能力を身に付けさせるために「どのように学ぶか」の更なる学びの質の向上に向けた研究・取組を行ってきた。研究主題「自ら学ぶ力をつける学習指導に関する研究」～ 主体的・対話的で深い学びによる授業改善 ～の3年間の継続研究の2年目である。今回の改定が目指す学びの質の向上に向けて、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業実践について校内全体で取り組んでいきたいと考える。

4. 研究の具体的取組内容と方法

(1) 授業形態の統一「山北スタイル」(思考力を高める授業形態)

| | | |
|--|---|---|
| <p>【教師】 ①課題提示の工夫</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>②自力解決支援</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>③相互解決・展開</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>④評価・まとめ</p> | <p>・生活等と結びつく課題</p> <p>・意欲につながる課題</p> <p>・生徒自ら思考・判断・表現するための支援</p> <p>・ペア、グループ解決、全体解決</p> <p>・評価(生徒・教師)</p> <p>・まとめ(定着と繋がり)</p> | <p>【生徒】 ①課題の把握(的確な)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>※見通し</p> <p>②自力解決(記述ノート等)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>※活用力</p> <p>③相互解決(学び合い)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>※協働的学習</p> <p>④まとめ(学習整理)</p> <p style="text-align: right;">※振り返り</p> |
|--|---|---|

(2) 基礎学力定着の取組

- ①自主学習ノートの作成
- ②スコラ手帳の活用(書く習慣・時間を意識する習慣・考える習慣)
- ③朝学習 → 読書活動の定着、「書くこと」の定着「作文」の実施
- ④山北サポートタイム → 基礎基本の定着、年間10回実施

またこのほかに、定期テスト前には放課後「自学の時間」として質問を受けての指導や、自主学習をする時間を確保している。夏休みには、「夏季学習会」として、基礎学習や個別の課題を指導する時間を各学年・各教科で設けている。

- (3) 教材教具の開発・工夫
- (4) 教科に関わる掲示物の工夫
- (5) 授業改善プランを生かした研究実践
- (6) Q-Uアンケートの分析

年間校内研修計画

研究主任 萩原 修

| 研究テーマ | 教科領域等 | 担当者 | 学年 | 授業の時期 | T・C要請 |
|---------------------|-------|-------|----|-------|-------|
| 主体的・対話的で深い学びによる授業改善 | 国語 | 未定 | 年 | 11月頃 | |
| 主体的・対話的で深い学びによる授業改善 | 社会 | 未定 | 年 | 11月頃 | |
| 主体的・対話的で深い学びによる授業改善 | 数学 | 未定 | 年 | 11月頃 | |
| 主体的・対話的で深い学びによる授業改善 | 英語 | 未定 | 年 | 11月頃 | |
| 主体的・対話的で深い学びによる授業改善 | 理科 | 未定 | 年 | 11月頃 | |
| 社会 研究授業 | 社会 | 菊池 照幸 | 2年 | 11月 | ○ |
| 道徳 研究授業 | 道徳 | 内田 晴奈 | 1年 | 1月 | ○ |

